

英語学習 きほんのきほん
Basic Learning Strategies

学習の基本戦略

まだ TOEIC の勉強あるいは英語の勉強をはじめたばかりという人、目標スコアが 470 点前後の人は学習成果をいそぐあまり、間違った努力をしてしまいがちです。そのために、せっかく英語学習に時間を割いても成果がでないことがあります。ここでは、長期的な視点から初級者に何が必要なのかをご説明します。

初級者が TOEIC 受験に向けて意識しなければいけないのは、

- ① 基礎的な英語力を少しずつ身につけること
 - ② 基礎的な英語力で対応できる問題を確実に得点する力をつけること
- の 2 つだけです。

しかし、多くの人が現状では必要のない知識を身につけようとしたり、応用力が必要な中級者向けの解答テクニックを学ぼうとします。それでは、逆に遠回りになってしまうことに気づいてください。

具体例をあげれば、人気のある単語集や文法問題集はよくでる知識が詰まっていますが、初級者がまず身につけなければいけない（空気や水のような）大事な知識は当然知っているものとして省略されています。おそらくそういう本を使ってもなかなか成果はでません。まずは自分に必要な知識を泥臭く積み上げていくほうが先です。正解にたどり着くための解答テクニックも大概のものはある程度の英語力を前提としています。十分な英語力がないのに、それらの解答テクニックだけ磨こうとしてもスコアは上がりません。

では、それを踏まえた上での日々の学習方法ですが、以下の 2 つのことを意識してください。

- ① なるべく間をあけず、毎日勉強する
- ② 絶えず自分の学習内容をチェックする

① 毎日勉強するというのは小学生以来、何度も言われていることではしょうが、実際実行することは忙しいみなさんにとって、かなりきついことだと思います。ですが、5分でも10分でもいいので、まったく勉強しないという日をつくらない、勉強しない日が2日以上続かないようにすることは可能だと思います。忙しいときは新しいことを学習するのをやめて、今まで学習したことをざっと復習するというのもいいやり方だと思います。

② 学習内容をチェックするについては簡単な学習日記のようなものを毎日つけて（可能なら英語でつけてください）、自分ができるとまだできないことを区別しながら学習するということが大切です。少しずつ自分の「できない」を減らし、「できる」を増やしていくのが学習だからです。

以上のような長期的な視点で、正しく勉強すれば、かならず結果は出ます。

それでは、初級者の学習に役立つコンテンツをいくつかご紹介したいと思います。

リスニング

発音の基礎を学び、音と意味を結びつける

TOEIC L&R テストでは、半分がリスニングの試験のために、聴き取れなくては問題を解くことができません。リスニングを苦手としている人は2つのことをする必要があります。

- ① 発音の基礎を学び、正しい英語の音を聞き取れるようにする
- ② 意味のわかっている一定の長さのものを何度も聴き、聴いただけでパッと意味がわかる練習をする

個々の母音・子音を正確に発音する (音声は別途ダウンロードしてお聞きください)

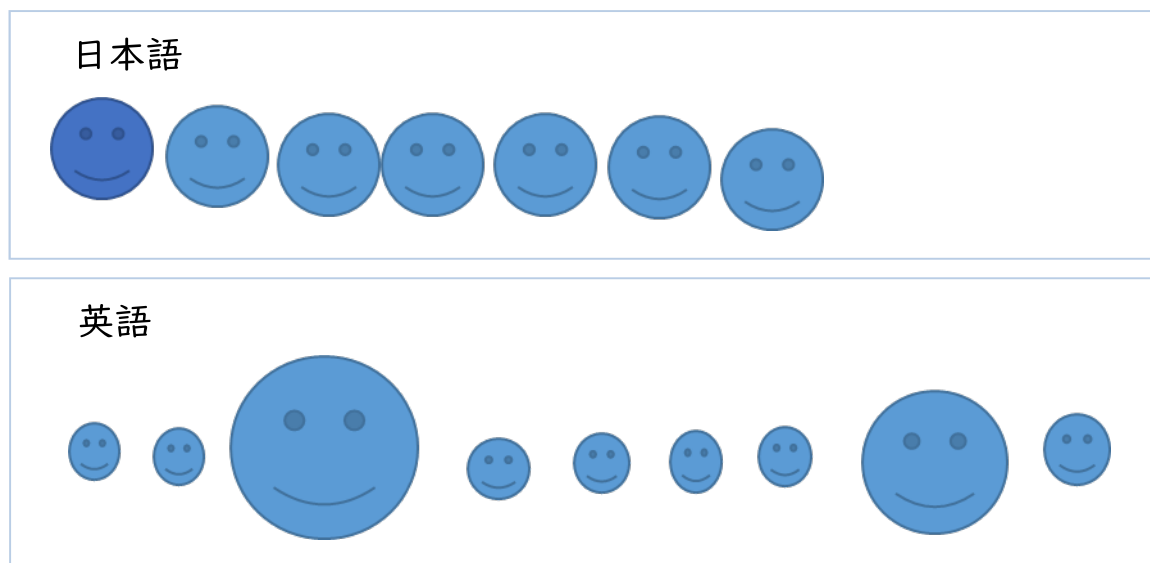
母音

発音記号	表記 (単語)	発音 (単語の発音)	発音記号	表記 (単語)	発音 (単語の発音)
/i:/	see	/si:/	/e:/	say	/sey/
/i/	sit	/sɪt/	/a:/	right	/raɪt/
/ɛ/	get	/gɛt/	/ɔ:/	oil	/ɔɪl/
/æ/	hat	/hæt/	/aʊ/	now	/naʊ/
/ɑ/	hot	/hɑt/	/oʊ/	go	/goʊ/
			/ər/	work	/wɜ:k/
/ɒ/	put	/pʊt/	/iər/	near	/niər/
/u:/	too	/tu:/	/eər/	care	/ceər/
			/ɑr/	car	/kɑr/
/ə/	about	/əbaʊt/	/ɔr/	more	/mɔr/
/ʌ/	cut	/kʌt/	/ʊr/	pure	/pʊr/

子音

発音記号	表記 (単語)	発音 (単語の発音)	発音記号	表記 (単語)	発音 (単語の発音)
/p/	pen	/pen/	/w/	well	/wel/
/b/	bag	/bæg/	/ð/	then	/ðen/
/t/	tea	/ti:/	/s/	so	/soʊ/
/tʃ/	better	/betər/	/z/	zoo	/zu:/
/d/	did	/dɪd/	/ʃ/	she	/ʃi:/
/k/	come	/kəm/	/ʒ/	vision	/vɪʒn/
/g/	got	/gɑt/	/h/	how	/haʊ/
/tʃ/	chance	/tʃæns/	/m/	man	/mæn/
/dʒ/	June	/dʒu:n/	/n/	know	/noʊ/
/f/	fall	/fɔl/	/ɪŋ/	sing	/sɪŋ/
/v/	voice	/vɔɪs/	/l/	led	/led/
/θ/	think	/θɪŋk/	/r/	read	/red/
/y/	yes	/yes/			

文の中でのストレスやリズムに気を配る



このように大まかに言えば，日本語はフラットに音が流れるのに対して，英語は強く・長く発音される音節と，弱く・短く発音される音節があります。ひとつの文の中でも大事な情報とそうでもない補足の部分では，長さや強さに違いがあります。このリズムがわかってくると細かい音が聞き取れなくても重要な部分を聞き逃さなくなります。ぜひ自分でナレーターの音声を真似してください。その際にこういう強弱のストレス，リズムやイントネーションなどに気を配ってみてください。

何度も音を聴いて，音と意味を結びつける練習をする

発音だけを意識しても実際にまとまった長さのものを聞き取る練習をしないと聞き取れるようにはなりません。しかし，ぼんやりと聞き流しても意味がありません。最初のうちは，スクリプトや訳を見た，すでに1度聴いたことのある教材でよいので，何度も繰り返して聴き，聴くだけで，意味が頭に浮かぶまで練習してください。聴こえた音声に合わせて声を出す作業（シャドウイング）や，音声に合わせてスクリプトを音読する作業をすすめる指導者もいますが，必ずしもそれをする必要はありません。聴いてパッと意味が浮かぶ状態になってからその作業をするほうが効率的だからです。最初のうちは時間がかかるかもしれませんが，かならず成果が感じられるので続けてみてください。

リーディング

「部分」⇔「全体」を意識する

Part 7 はたくさんの文書を読まなければいけないので、いちいち日本語に訳していたのではとても時間が足りません。普段から少しでも速く読めるように意識することが大事です。しかし、いくら速く読んでも内容が全く頭に入っていないのでは意味がありません。そこで、東海大の中川浩先生が大学で初級者向きにリーディング指導法として使っているものを本書の学習者用にアレンジした方法をご紹介します。

センテンスが **Topic (Who/What) + Comment (Does/Is What)** 「トピック（誰または何が）」と「コメント（何をする・何である）」から成り立つことを意識して、「トピックを構成する人・もの・ことを表わす名詞」と「動作を表わす動詞+動作の対象になる名詞」あるいは「be 動詞系の動詞+描写・説明の語句」をとらえることに集中し、あとの部分は付加情報として扱います。

では、実際に次のテキストで試してみましょう（Lesson 23 の問題からの抜粋。訳は本書を参照）

The Pleasant Valley Homeowner's Association will be having our annual charity fun run on June 10. There will be four types of races—a 3K (for those with young children), 5K, 10K, and half marathon! The entrance fee is \$10 per person, payable before the event. Please note that this is only for people living in the Pleasant Valley neighborhood. Those interested in joining please email secretariat@pvha.org before June 1. Thank you.

最初のセンテンスを見ます。

Topic (What)

+

Comment (Does/Is What)

不可情報

The Pleasant Valley Homeowner's Association

What: 何かのassociation が

will be having our annual charity fun run

Does: 開く

What: 走るイベント を

on June 10.

このような感じで後ろに戻ることなく、1つ1つのセンテンスの意味を取り、前から読んでいく習慣をつけてみてください。

同時に、文章全体の構成を意識しながら、

- What is this text about? (この文章は何についてか)
- What are the important points in the text? (文章の中での重要なポイントは何か)
- Which point is this detail for? (この詳細はどのポイントのためにあるのか) などをとらえることも大事です。

英語は、語と語がつながり、意味のかたまり(meaningful chunk)を作り、そのかたまりが正しい語順に並ぶことでセンテンス(sentence)になり、そのセンテンスとセンテンスにつながり(cohesion)があることでまとまり(coherence)のある文章になっています。
一つ一つのセンテンスから意味を取るという「部分」を読むということが内容をつかむという「全体」とうまくつながってくれば、リーディングスキルが向上してきたと言えるでしょう。

語彙力

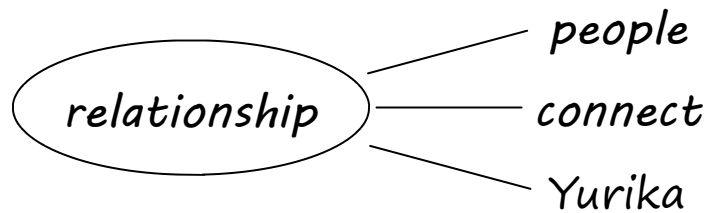
語彙力をつける方法

基本的に初級者に辞書や単語集は必要ありません。今やっているテキストを繰り返し学習することで出会った語彙を少しずつ身につけていけば十分です。しかし、テキストで出会う語彙が覚えられないという人のために、James D. Dunnという日本の大学で教えているアメリカ人研究者が勧めている語彙学習法をご紹介します。

① まず、覚える語を決めます。無理をせずに1日3つ程度、多くても5つ、自信がなければ1つか2つでも構いません。

② 3×5 (75mm×125mm) のカードあるいはノートに覚えたい見出し語とその語の意味から連想する語を3つ書きます。できれば英語で書いてください。ただし、必ずすでに習得した語で書いてください。できなければ日本語でも構いません。ただし、覚えたい語の意味は絶対に書いてはいけません。

(詳しい方法は以下になります)



relationship (関係) という言葉を覚えようと思った場合です。まず、覚えようという語から線を引き、その先に連想する語を書きます。「人と人とのつながり」や「彼女との関係 (connect) がうまくいなくて別れたこと」「彼女 (Yurika) を引きずっていること」が浮かんだとして、それに関連する語を書いておきます。大事なことは覚えたい語から連想することを書くことであって、語の品詞がどうだなどの余計なことを考える必要はありません。

③ 次に、覚えようという語の例文を自分で作ります。カードを使う場合は②で書いた覚える語と連想する語の裏に書き、ノートの場合は少し離れた部分に書いてください。すでに自分が習得した簡単な文構造のセンテンスで書いてください。

My relationship with my girlfriend ended.

どうしても書けない場合は、テキストで出会ったセンテンスから余計なものを取り除いて簡潔にしたものを書きます。

例えば、Service representatives' responsibilities are to develop relationships with customers.とテキストにあったとすれば、

I developed relationships with a lot of new customers.

のようなセンテンスにします。

④ 寝る前や通勤通学の時間などのちょっとした時間を使って、作った例文を読んで文意が取れるか確認します。できなかった場合は、連想する語を見てください。きっと思い出せるはずです。万一忘れてしまった場合は、テキストに戻って意味を確認します。これを1日に何回か繰り返します。

この方法で絶対に覚えられるはずです。この方法のよいところは、単に一つの英単語とその訳語を丸暗記するのではなく、自分に関係することと結びつけて覚えることで一度覚えればなかなか忘れません。さらに、少し面倒なこの作業をすることで、リーディングに必要な類推力や文法力も自然に身につけていきます。どうしても本書の語が覚えられないで苦しんでいる人はぜひ試してみてください。

また語彙学習において意識してほしいのは、必ずしも全く知らない語を覚えることだけが語彙学習ではありません。むしろ、見たことがあるけれども、意味は覚えていない語や、意味は知っているけれども使えない・使い方がわからない語を覚えたほうが総合的な英語力につながることもあります。

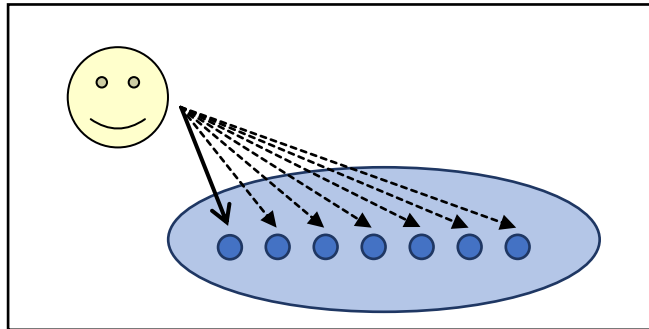
文法

文法についても、難しい項目を追いかけるよりも、『きほんのきほん』で触れた項目をしっかりとマスターすることが先決です。本書の中で特に問題として使われていないので掲載していませんでしたが、英語を理解する上で欠かせない「限定詞」と「前置詞」の使い方を以下にいくつか紹介しておきます。

a vs the vs ø

名詞の前につけて、表わす人・もの・ことを絞り込む語句のことを限定詞と呼びますが、この中でも最も使い分けに苦労するのがa (an) vs the vs ø（限定詞をつけない場合）でしょう。これらの使い分けを100%間違えないようになるのは難しいかもしれませんが、大原則を押さえておくだけで対応の幅はぐっと広がります。

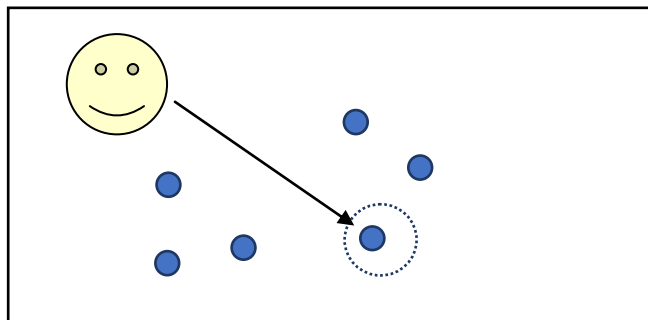
a X = any one of the X



後ろにくる名詞が、聴き手・読み手にとってはまだ知らない情報であり、たくさんあるものの中からどれでも1つという場合、aを使います。

I have **a** meeting at 2:00 P.M. (2時に会議があります → 聴き手はどの会議が特定できない)

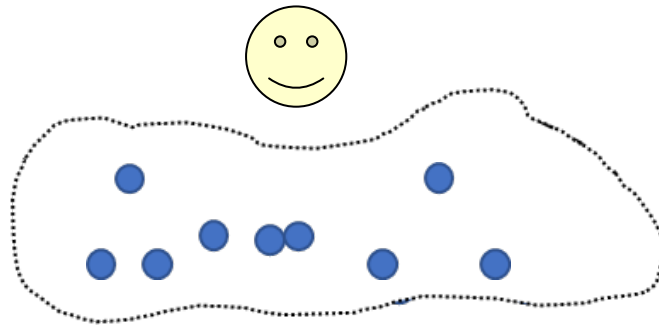
the X = that X



aとは対象的に、以前に言及されていたり、世の中にそれしかなかったり、文脈上どれを指しているのかははっきり決まる場合はtheを使います。

Be careful for **the** guy over there. (あそこにいる男性に気をつけて → 文脈上誰をさすか明確)

∅ Xs = X in general



具体的な人・もの・ことを指さず、一般的・抽象的な話をするときは、限定詞をつけない複数形を使います。

Managers have to know how to motivate people. (管理職は人にやる気を出させる方法を知っていないといけない→管理職一般の話)

上記の大原則を抑えると次のようなものも理解できると思います。

Be careful for **the** girls over there. (あそこにいる女の子たちに気をつけて→特定の複数の女性たち)

Some managers do not know how to motivate people. (具体的だが聴き手は知らない複数の管理職)

場所を表わす前置詞

前置詞そのものの用法を問う問題が出題されることはまれですが、基本的な用法を押さえていないと、内容を理解する上で苦勞します。場所を表わすものはイメージで覚えるのが有効です。

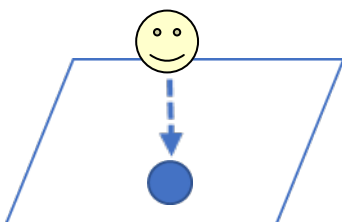
on X Xに「触れて」「接して」



Some books are **on** the table.

(何冊かの本がテーブルの上に置かれている)

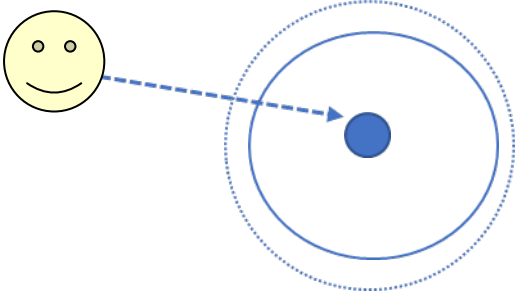
at X Xという地点で



Marissa is waiting **at** the station.

(Marissa が駅で待っている)

in X Xという「空間の中で」



Mark is **in** a meeting room.

(Mark は会議室にいます)

from X Xを「起点として」



Yuka drove here **from** LA.

(YukaはLAからここまで運転した)

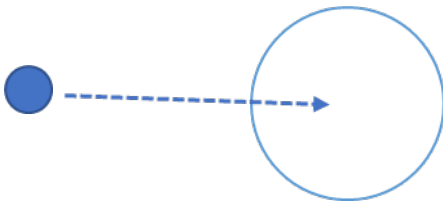
to X Xを「終点に」



Rich went **to** Michigan in May.

(Richは5月にMichiganに行った)

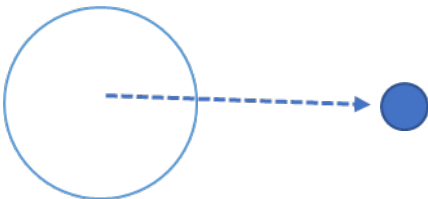
into X Xという「空間へ」



A young woman came **into** the room.

(若い女性が部屋の中に入ってきた)

out of X Xという「空間から」



Katie walked **out of** the room.

(Katieが部屋から出てきた)